

**オフショア投資入門書
(マニュアル)**

著者：河合 圭

今すぐプリントアウトを

このレポートは非常にボリュームがあります。PC で見ていては非常に目がつかれ、それだけであなたを疲れさせることになってしまいます。

そのため、まずプリントアウトをしてください。そして片手に蛍光ペンを持ってあなたが重要だと思うところをマークしていただきます。

きつとこれを読み終わるころには、蛍光色でいっぱいになっているはずです。それがあなたの今後の投資にとって大事なところですよ。

この入門書を作った理由・・・

はじめまして、K2 Investment（ケイツーインベストメント）の河合圭（かわいけい）と申します。

いろいろなところで私のプロフィールを書いているので、すでにご存知だと思いますが、私は大学を卒業し、中国へ留学し、野村証券へ入社しました。野村証券では最もよくある、個人投資家へ株や債券、投資信託などを販売するという仕事をしていました。きっと皆さんの知っている『野村証券』という姿そのものだと思います。自転車や車で家まで来て、

「はじめまして、野村証券の〇〇といいます。今、こういう株（投資信託）が人気がありまして、きっとあなたにもいいと思います。投資してみませんか？」

というあれです。

私もずっとそういうことをしてきました。それなりにいい営業の数字もあげてきました。その分、同世代に比べていいお給料もいただけてきました。26歳になる頃、大企業でいえば40代の管理職がもらう年収くらいはもらっていました。

しかし、クライアントである投資家にとって、これはいいことなのだろうか？いや、きっとそうではない。今人気があるとか、会社がこれを新しく募集するとか、そういうのとは関係がなく、その投資家にとって投資すべき商品とそうでないものがある。そう考えていました。

投資助言業という仕事

証券マンという仕事で投資家へ提供できることに限界を感じた時、偶然知ったのが『投資助言業』。

金融業は、大きく分けて、

証券会社：株や債券、投資信託などを販売

銀行：預金や借入

信託銀行：信託（相続）やファンド管理

保険会社：いざという時のための保険

運用会社：投資家の資産をまとめて運用するファンド会社

投資助言会社：顧客に客観的なアドバイスをする会社

となっています。それぞれ役割が違います。しかし、投資する側の人間にとって唯一利益相反にならず、唯一同じ方を向いて話をできるのが『投資助言会社』なのです。

そこで私は K2 Investment(株)（ケイツーインベストメント）という会社を作り、金融庁より『投資助言業』というライセンスを取得しました。



金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 2299 号

これで私は野村証券で募集している株式も、三菱 UFJ 銀行で販売しているグロソブも、横浜銀行で販売している豪ドル債も、それが良いのか悪いのか、堂々とアドバイスできるようになったのです。

日本の証券市場の矛盾

『投資助言業』という立場から日本全体を見てみると、明らかに足りないものがあります。それは海外にあるはずの投資商品の情報です。

あなたが資産を増やそう、投資からお金を儲けよう、という時、どこから情報を得るでしょうか？

- A. 金融機関（銀行、証券会社、外資系金融機関など）
- B. 投資に詳しい友人、知人
- C. インターネット

あえてこの順番に書きました。これは利用する数の多い順です。つまり、Aの金融機関に聞く方が圧倒的に多く、その次にBの身近な知人、友人。最後にCのインターネットという限りなく広い世界から、自分にとって有益な情報を主体的に得るという方法です。

ではそれぞれメリット、デメリットをあげていきましょう。

A. 金融機関（銀行、証券会社、外資系金融機関など）

メリットは、彼らはより多くの収益をあげるために、投資家の身近なところに店舗を作り、たくさんの人を雇って、投資家にとってできるだけわかりやすい資料を用意してくれます。時には家まで足を運んでくれるでしょう。

デメリットは、彼らの収益はすべて、あなたがその金融機関で投資しているお金から生み出されます。言い換えると「手数料」として支払っている対価として、店舗が設けられ、営業マンが雇われ、資料がもらえます。こういったものを必要としない投資家にとっては、余計な手数料が多いただけ、あなたの儲けも少なくなるでしょう。

B. 投資に詳しい友人、知人

メリットは、友人、知人に聞く情報はタダです。タダほど安いものはありません。さらに信用できる人で、その人自身が投資でとても儲かっていれば、言う事ありません。

デメリットは、彼らはあなたの投資に何の責任も持てません。投資はあくまで自己責任ですので、いつ買うか、いつ売るか、どれに投資するか、ということは、自分の資産には100%の神経を使えど、あなたの資産にまで使うことはないでしょう。

C. インターネット

メリットは、家にいながら世界中の情報が手に入ります。

デメリットは、主体的に探しに行かないといけないこと。せっかくの情報が世界中のどこかにあったとしても、その情報まで辿り着けないということもあります。二つ目に、世界中の情報といっても、日本以外のサイトはすべて英語（もしくはその国の言語）だということ。三つ目に、すべてネットという2次元の世界にあるものなので、真実味が欠けるということ。

きっとこの入門書を手にした方は、Cのインターネットを使って情報収集されている方が多いでしょう。しかし気をつけてください。ネットで多くのお金を集めたにも関わらず、実際にはどこにも運用をしていないという業者もあります。信じられるものかどうか、あなたの目で見て確かめることも忘れないでください。

先程の海外の金融情報の話に戻しましょう。上記のA~Cの中で、海外の金融情報を手に入れられるのはC（インターネット）のみです。なぜならばA（金融機関）は、日本の顧客に案内する限り、金融庁に登録された金融商品しか案内できません。つまり、「海外のどれだけ有名なファンドでも、どれだけ運用成績が良くて投資家のためになったとしても、日本の金融庁に登録していなければ案内はできません」。案内できないものを社員に教育させる無駄な会社はありませんので、たとえあなたが日本の金融機関へ行ったとしても、海外の金融商品の話はしてもえませんし、仮にあなたがその情報を事前に知っていて、金融機関へ行ったとしても、彼らのところでは投資はできません。

B（友人、知人）は、彼らが知っていればもちろん教えてもらえるでしょう。しかし、そういう方はまだ多くはありません。

結局残る手段はC（インターネット）しかないのです、自分で探すことになります。しかし先程のデメリットの通り、情報はすべて英語。しかも金融という特殊な英語。

そこで出てきたのが、我々のような、海外の金融商品も助言する投資助言会社です。これであなたも『オフショア投資』ができるようになりました。

※その後、金融庁の規制強化により、海外ファンドのみ助言を行わないようにする圧力が入ったため、弊社は2014年3月にこの投資助言業をやめ、事業本体も海外に移すことで、国内外のファンドを純粋に客観的なアドバイスをできる体制としました。

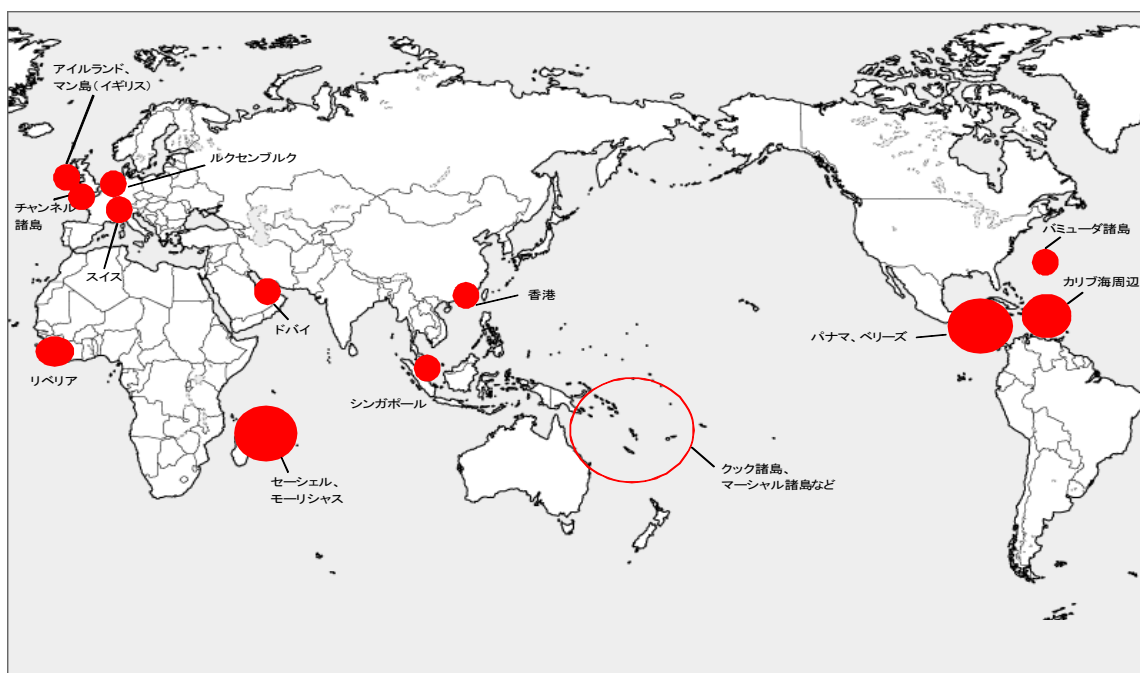
オフショア投資とは？

まず『オフショア』とは、税金がかからない国のことをいいます。そうです、税金がゼロです。投資して利益を出しても税金はゼロ（日本は20%）、法人が収益をあげてもゼロ（日本は約40%）、個人の所得もゼロ（日本は最大50%）です。

そんな国があるのか？と思われるでしょう。あります。知っている人間はちゃんとそれを使っています。有名なところで例を挙げると、F1のミハエル・シューマッハ（もうちょっと古い？w）はドイツ出身ですが、モナコ公国に籍を置いていますし、日本のIPO長者も株を売却した後は、日本の資産をすべて売却して、オフショアへ移しています。

具体的な国を見てください。

（次ページ図表参照）



本当はもっとありますが、すべて書いては地図が真っ赤になってしまうので、主なところをあげました。

先程ミハエル・シューマッハのような、個人のオフショア活用を書きましたが、ファンド会社にとってはさらに効果が大きいのです。なぜならば彼らが世界中から集めて運用している資金は多いもので1兆円、少ないものでも1000億円もあるからです。利益確定のたびに都度税金を払っていても、それだけ投資家に還元できるキャッシュが減ってしまいます。経済的優位性から、必然としてファンド会社はオフショアに籍を置くようになったのです。

オフショア投資情報

運用コストが少ないということは、それだけ投資家にとっての

利益が大きくなります。さらにミハエル・シューマッハのような優秀な人間で、たくさんの富を築ける人間を呼ぶことができます。金融であれば、運用成績の良いファンドを作れるファンドマネージャーたちです。結果、オフショアには運用パフォーマンスの良いファンドが多く存在するようになりました。

例をあげましょう。これが日本で最も有名な Man 社の Man AHL というファンドです。

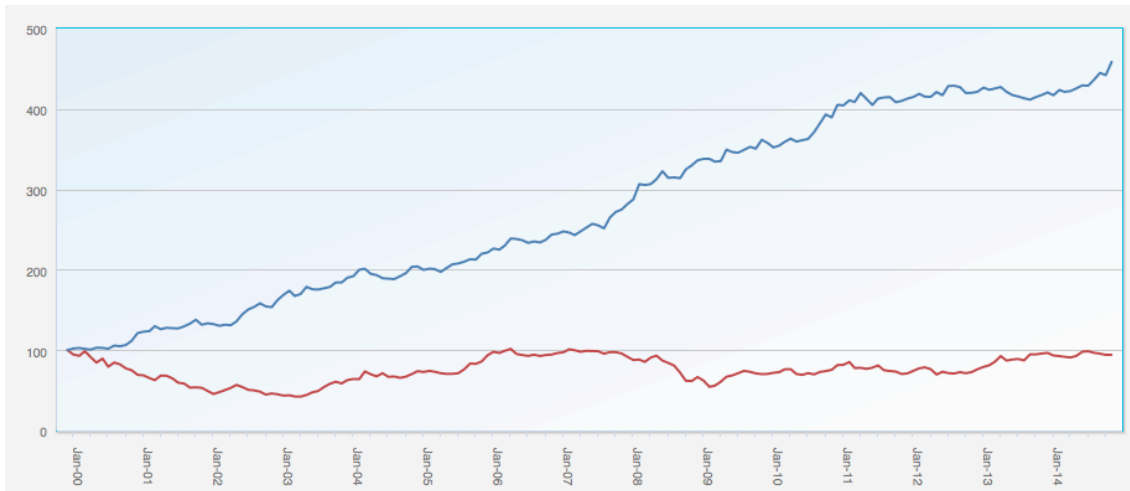
Performance chart 27 March 1996 to 31 January 2017*



仮にあなたが 1996 年に 100 万円このファンドに投資していたとすると、現在約 930 万円になっています。世界的に株安だった 2007 年、2008 年、2014 年も +18.0%、+24.9%、+31.7% と上がっています (2017 年 1 月現在)。

さらにわかりやすくするために、この期間の日経平均とこのファンドの戦略とで比較してみましょう。

(次ページ図表参照)



青：Man AHL の戦略（マネージド・フューチャーズ戦略）

赤：日経平均株価

2000 年から比較した場合、日経平均株価は下がっていますが、Man AHL は 5 倍近くになっています。

この情報は、私だけが持っている情報ではありません。世界中の誰でもアクセスできる情報です。よかったら、直接 Man 社の HP へ行って見てください。他にもたくさんのファンドがあります。

【Man Investments HP】

<https://www.man.com>

しかしここで投資家にとって困難なのは、先程も書きましたが、情報がすべて数字と英語だということ。また、情報が膨大すぎて、何が自分にとって有益な情報なのかの判断ができないということです。

どうやって投資をしたらいいのか？

投資情報は取れて、どれに投資するのか決められたとして、いったいどうしたら購入できるのか？と誰もが思います。

答 A：直接ファンド会社に連絡をして、申込書（英語）を送ってもらい、それに記入して送り返す。

これができる方はそうしてください。Man社の電話番号も問い合わせ先もすべて Web サイトに書かれています。それができない方は、

答 B：弊社に相談する。

私までご連絡ください。投資情報含め、申込用紙、解約用紙、すべて用意しています。今ないファンドの申込用紙にも、必要であれば取り寄せます。

オフショア投資手順

手順もいたって簡単。「資産を増やしたい」という意志さえあれば、誰でもできます。

1. 弊社へオフショア投資に興味があることを伝える。

2. 弊社投資アドバイザーから以下の質問を尋ねます。まずはそちらにお答えください。

- ・ご年齢
- ・現在の投資商品（金額、銘柄など）
- ・今までの投資経験（年数、商品など）
- ・今後の投資可能年数
- ・今後の投資可能金額
- ・現在の年収から貯蓄できる余剰資金（例：120万円／年）
- ・年率目標リターン（何%など）
- ・オフショアファンドも投資対象に入れるかどうか？
- ・その他、投資や人生でどのようなことを目標に運用していきたい、などあればなんでもお聞かせください。

3. 投資実行の際には弊社から申込書類を郵送（一部電子申込可）。

4. ご自身で今預けている銀行から、直接ファンド会社へ海外送金。

5. 自宅へ郵送、もしくはメールにて取引明細書が届き、運用報告書（Factsheet）も毎月送られてきます。

6. 運用状況、運用相談はいつでもお気軽にどうぞ。

最後に・・・

『オフショア投資』に関連して、

海外で運用した後、その資金を日本に戻すのか、海外口座で受け取るのか？

万が一（相続発生）の時のために『共同名義』にしておくのかどうか？

などは投資を決められる際、もしくは投資後弊社投資アドバイザーと個別に相談をしてください。

※ 本入門書を動画(Youtube)でも配信しています（無料）。
https://youtu.be/ZUzL4_BKCK4

K2 Investment
会長 河合 圭

info@k2-investment.com

<http://k2-investment.com/>